



ダンススクールの憧れの先生

小学校1年生の時からダンスを習っています。ダンス自体が楽しく、今も続けています。ダンスの先生が、明るくはつらつとした人で、私の憧れでした。ダンス以外の面でもとてもアクティブで、JICAに参加するなど国際的な活動を行っているお話を聞いて、興味を持ちました。

好きも、学びも、自分らしく続けられる国立大学へ

アメリカのミュージカルやホームドラマを見るのが好きで、欧米の文化に関心がありました。大学進学時は、国際関係が学べることに進みたいと考えました。別の国立大学への進学を目標に勉強していました。共通テストの結果を受け、苦手科目が響いてきそうでした。もし国立が不合格で私立大学に行くより、確実に国立大学の合格を狙いたい思いがありました。富山大学の人文学部を受験し、進学することに決めました。今は、専門分野の学びがとても興味深く、毎日が充実しています。また、かけがえのない友人たちにも出会うことができ、富山大学に進学して本当に良かったと感じています。憧れの先生のもとでダンスを続けたかったので、実家のある金沢から新幹線と富山の市内電車を利用して通学しています。

留学生とダンスできるサークルを立ち上げ

富山大学に入学して、世界中の人々と仲良くなりたいたいと思い、留学生をサポートする日本語バディに挑戦しました。英語で話をし、文化の違いなども面白いと感じていました。

日本語バディの活動の中で、留学生から「ダンスをやりたいけど、参加の仕方がわからない」と言われました。私は当初、富山大学のダンス部に所属していましたが、留学生も参加しやすいダンスサークルを自分たちでやりたいと思いました。ダンス部をやめ、同じ志の友人とサークルを立ち上げました。今では23人が所属しており、うち3人は留学生です。メンバーをまとめたり、振付を教えることにやりがいを感じています。もちろん大変なこともあります。周りに恵まれていて、すべてが勉強だと感じます。

ホストファミリーからの「ナンバーワン」

大学1年生の春季休暇に、富山大学の短期語学研修プログラムでニュージーランドに行きました。言語、文化の壁は大きく、研修当初はホストファミリーの生活に馴染めずにいました。とても厳しいホストで、家庭内のルールがきっちりしていました。インドなまりの英語を話す人で、聞き取りも難しかったです。しかし、この機会を無駄にしたくないという思いから、積極的にコミュニケーションを取るよう努めました。オークランド大学での授業を終え、ホストの家に帰るとまずマザーのお話を1時間ほど聞きました。だんだん英語も理解できるようになり、日本に帰国する頃には「過去28人の留学生を受け入れた中であなたがナンバーワン」と言ってもらえました。とても大変だったけど、大きく成長できた経験でした。



チャンスは恐れずにどんどん掴む

サークルの活動は、周りのいろんな人に応援してもらっています。バイト先の方や、友人を通じてイベント出演の依頼が来ます。これから活動の幅を広げていけたらと思っています。

留学にも、またチャンスがあればチャレンジしたい思いがあります。世界の人と関わってみたいです。海外との懸け橋になれるよう、恐れずにチャレンジを続けていきます。